

## 船舶事故調査報告書

令和2年1月22日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突（護岸）
発生日時	令和元年9月26日 22時05分ごろ
発生場所	岡山県倉敷市水島港 水島港西1号防波堤灯台から真方位290° 1.56海里 （概位 北緯34° 28.7′ 東経133° 42.2′）
事故の概要	貨物船昌栄丸は、東進中、護岸に衝突した。
事故調査の経過	令和元年10月8日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	貨物船 昌栄丸、499トン 136433、協和汽船株式会社（船舶所有者）、株式会社イコーズ（船舶借入人）、株式会社雄和海運（船舶管理会社）
乗組員等に関する情報	船長、四級（航海）
負傷者	なし
損傷	本船 バルバスバウに凹損及び亀裂 護岸 コンクリートに欠損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の末期
事故の経過	本船は、船長ほか4人が乗り組み、約8～10ノットの対地速力で東進中、船長が、左舷船首方に認めた南進中の2隻の出港船の前路を通過してから左転しようと思ひ、両船に注意を向けていたところ、水島港の高梁川左岸の護岸に衝突した。
分析	本船は、東進中、船長が、南進中の2隻の出港船に注意を向けながら航行していたことから、高梁川左岸の護岸に接近していることに気付かず、同護岸に衝突したものと考えられる。
原因	本事故は、夜間、本船が、東進中、船長が、南進中の2隻の出港船に注意を向けながら航行していたため、高梁川左岸の護岸に接近していることに気付かず、同護岸に衝突したものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・ 船長は、特定の船舶だけに注意を向けることなく、レーダー及びGPSプロッターを活用して船位の確認を適切に行うこと。